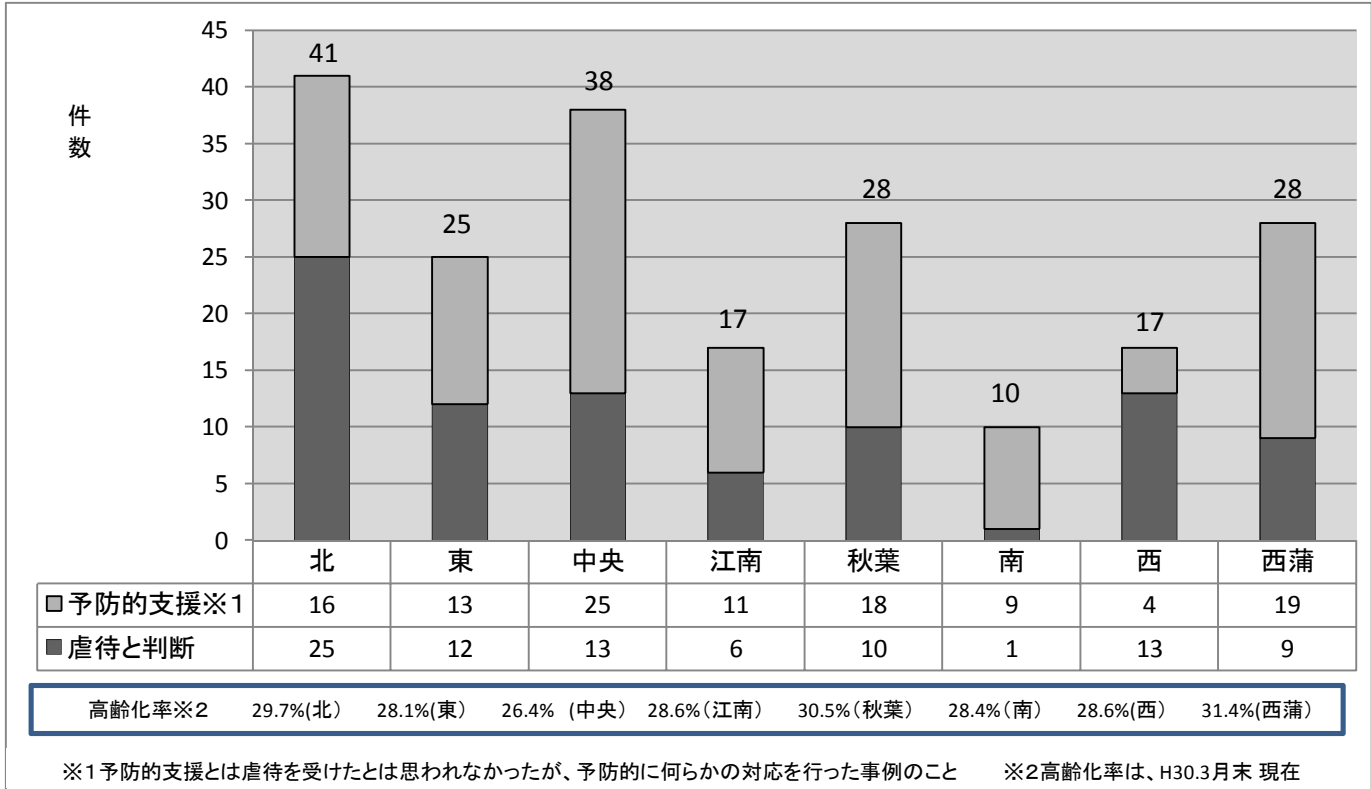


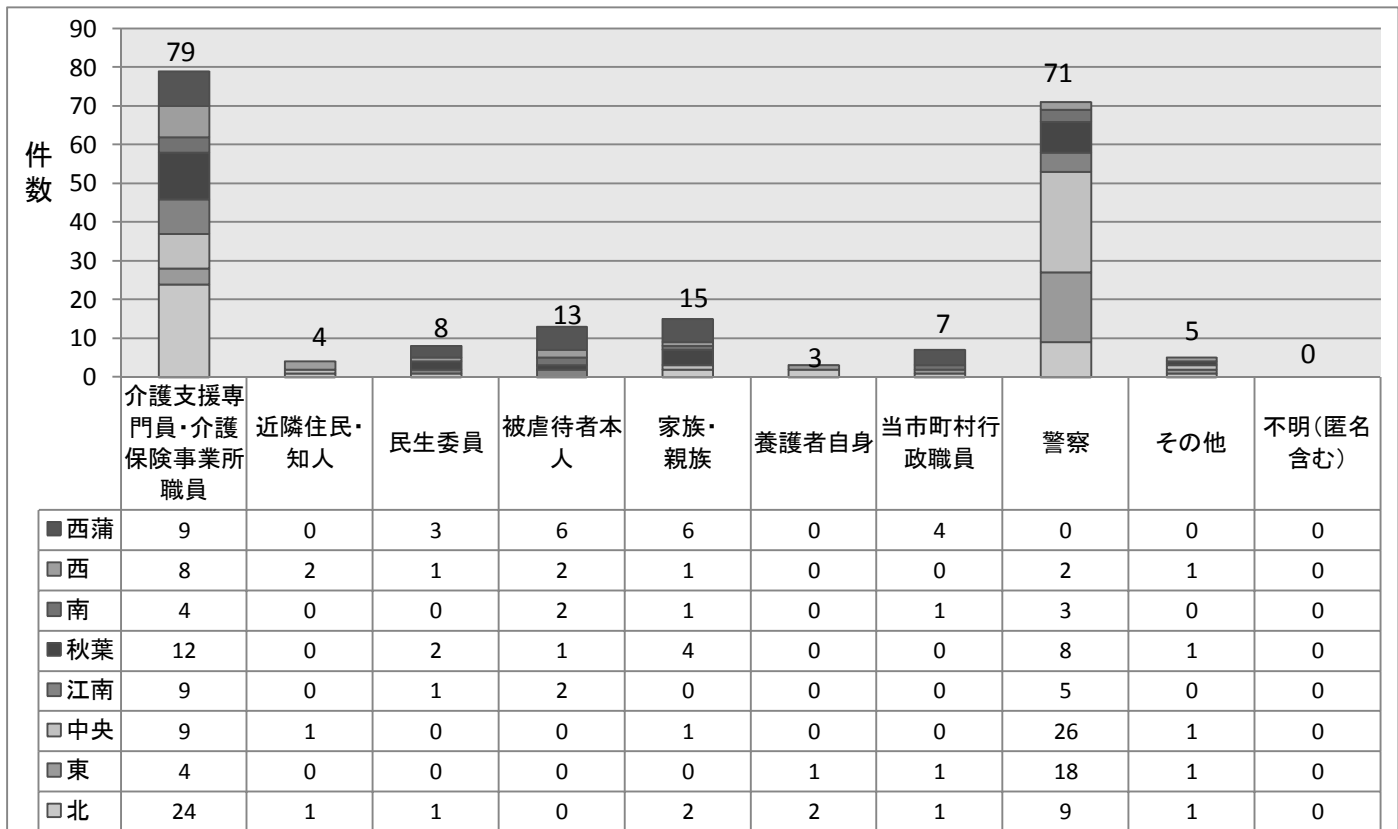
①相談・通報件数及び事実確認の結果

n=204

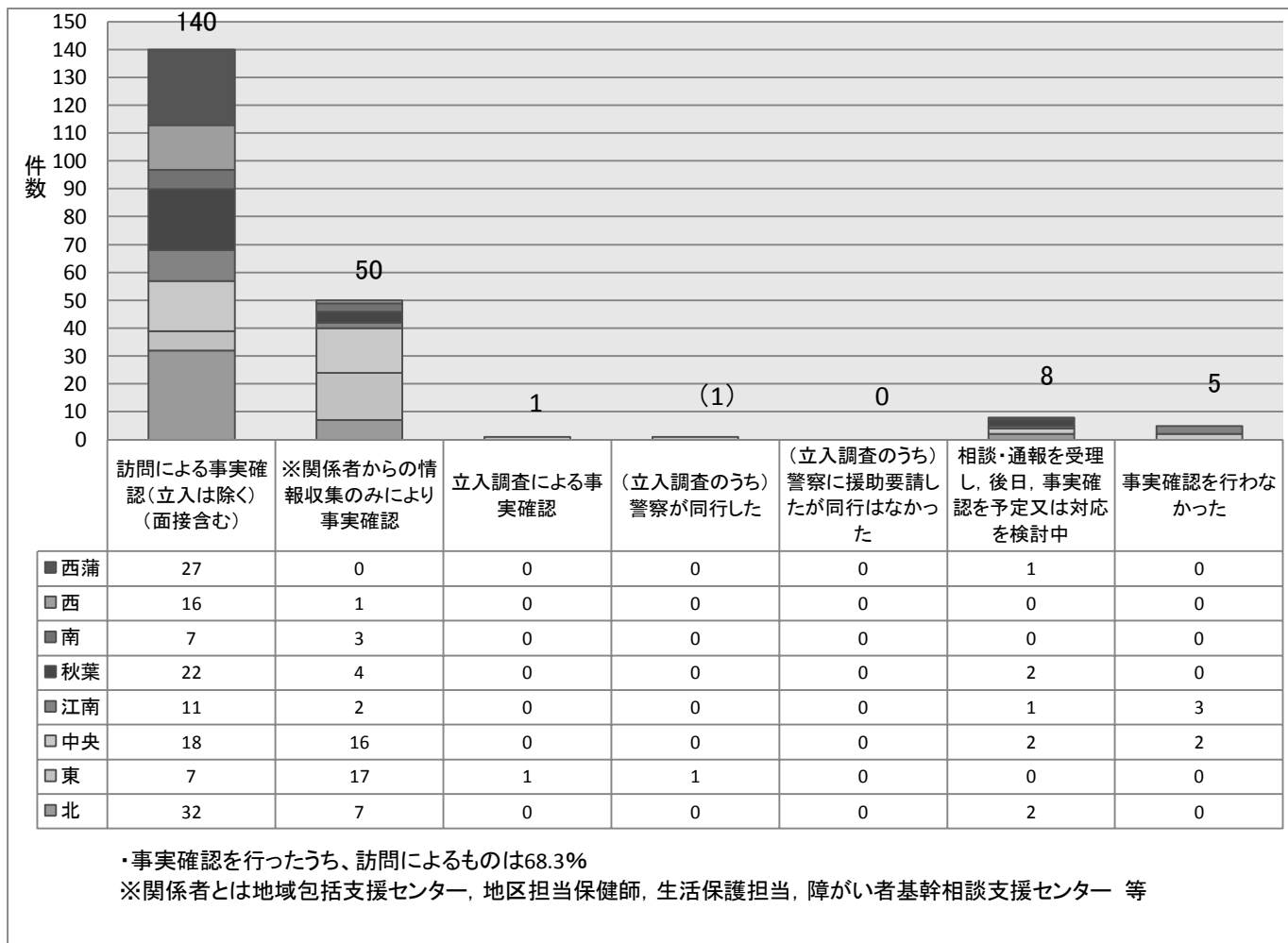


②虐待の相談・通報者(複数回答)

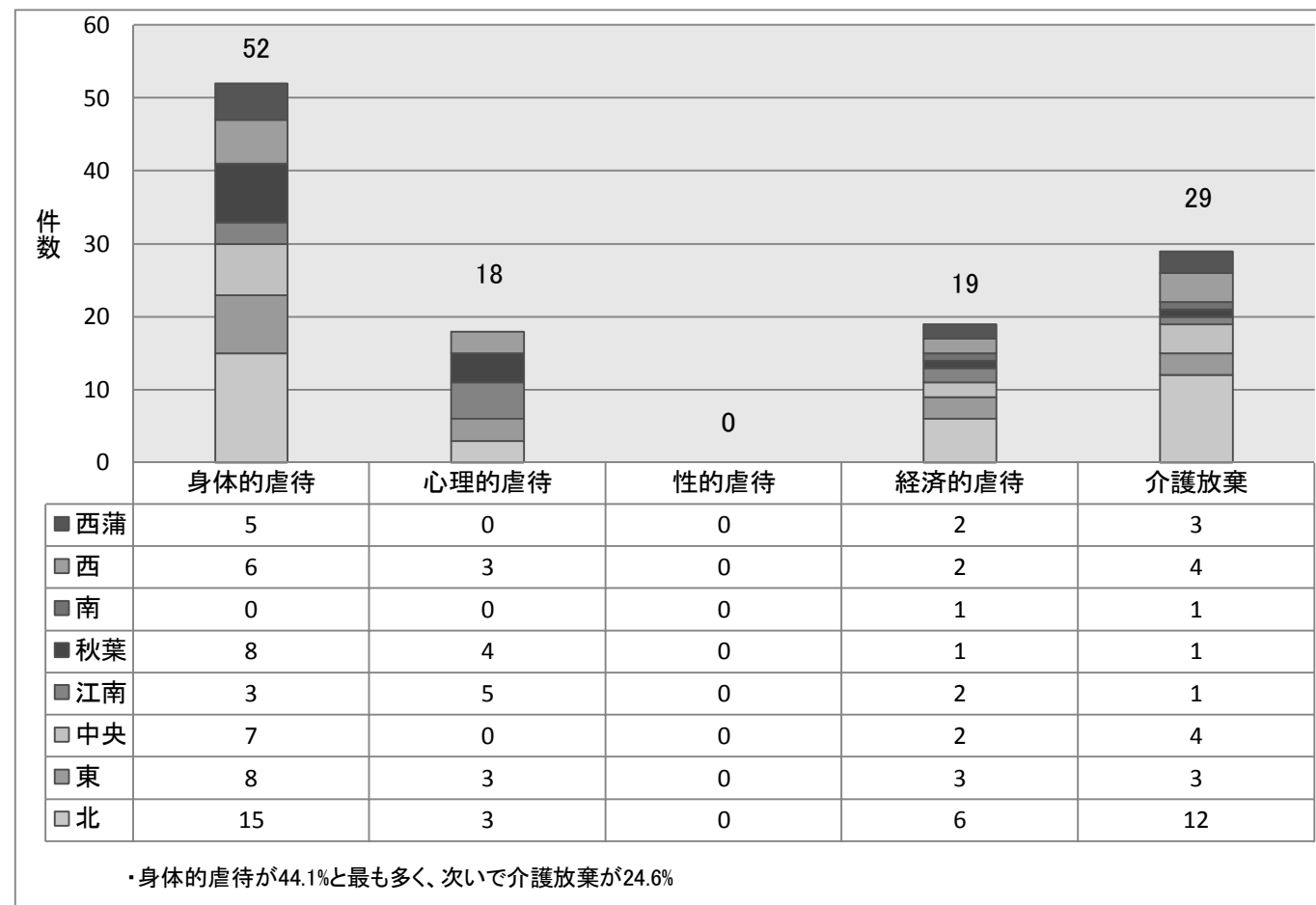
n=205

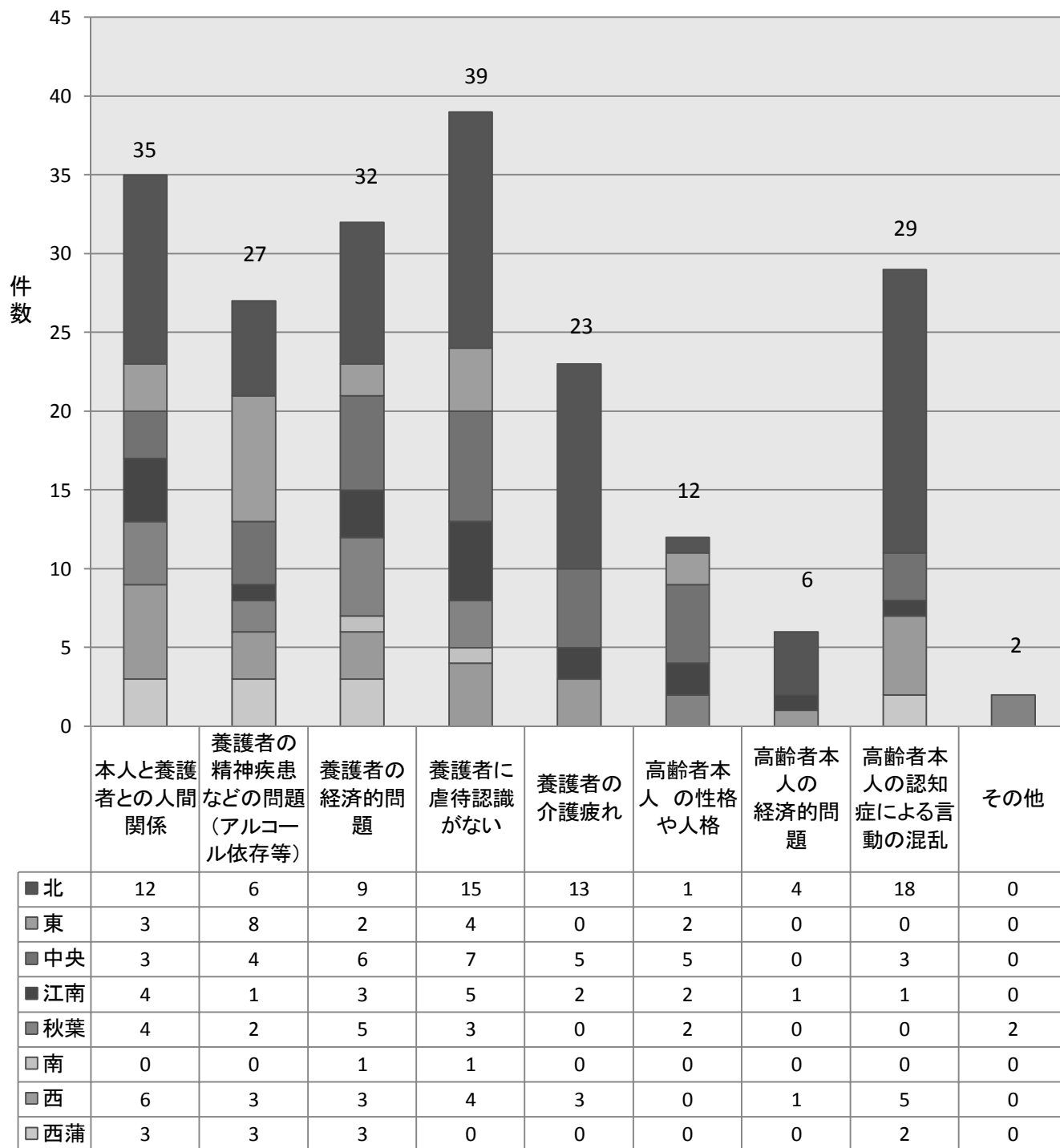


・介護支援専門員、介護職が38.5%と最も多く、次いで警察からの通報34.6%、家族、親族で7.3%となっている。
 ・その他・・・病院、県女性相談所、地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター、成年後見人



④虐待種類の内訳(複数回答)

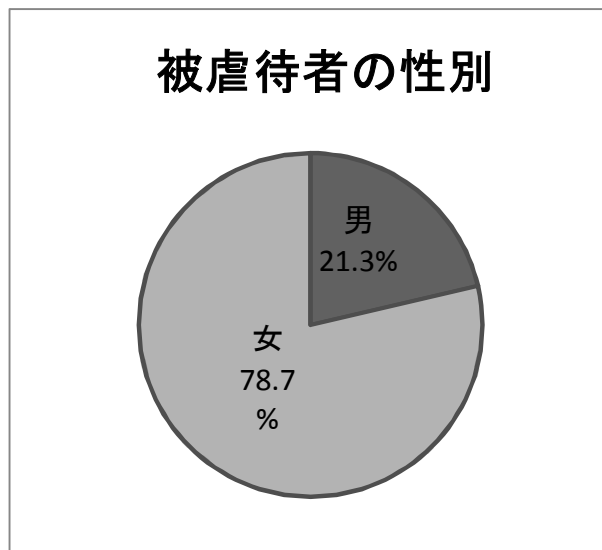
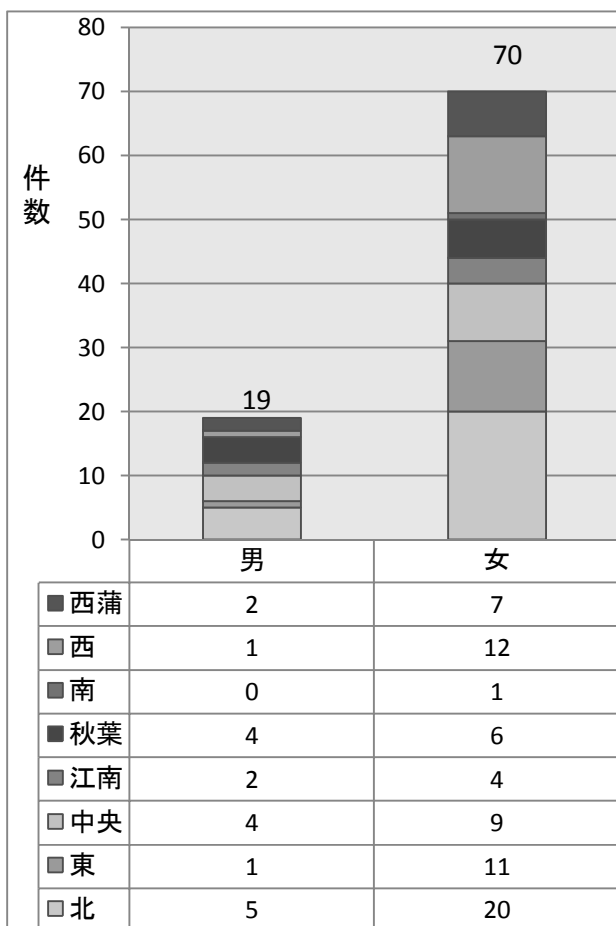




・養護者に虐待の認識が無いが19.0%を占める。次いで本人と養護者との人間関係が17.1%、3番目の理由は養護者の経済的理由15.6%であった。

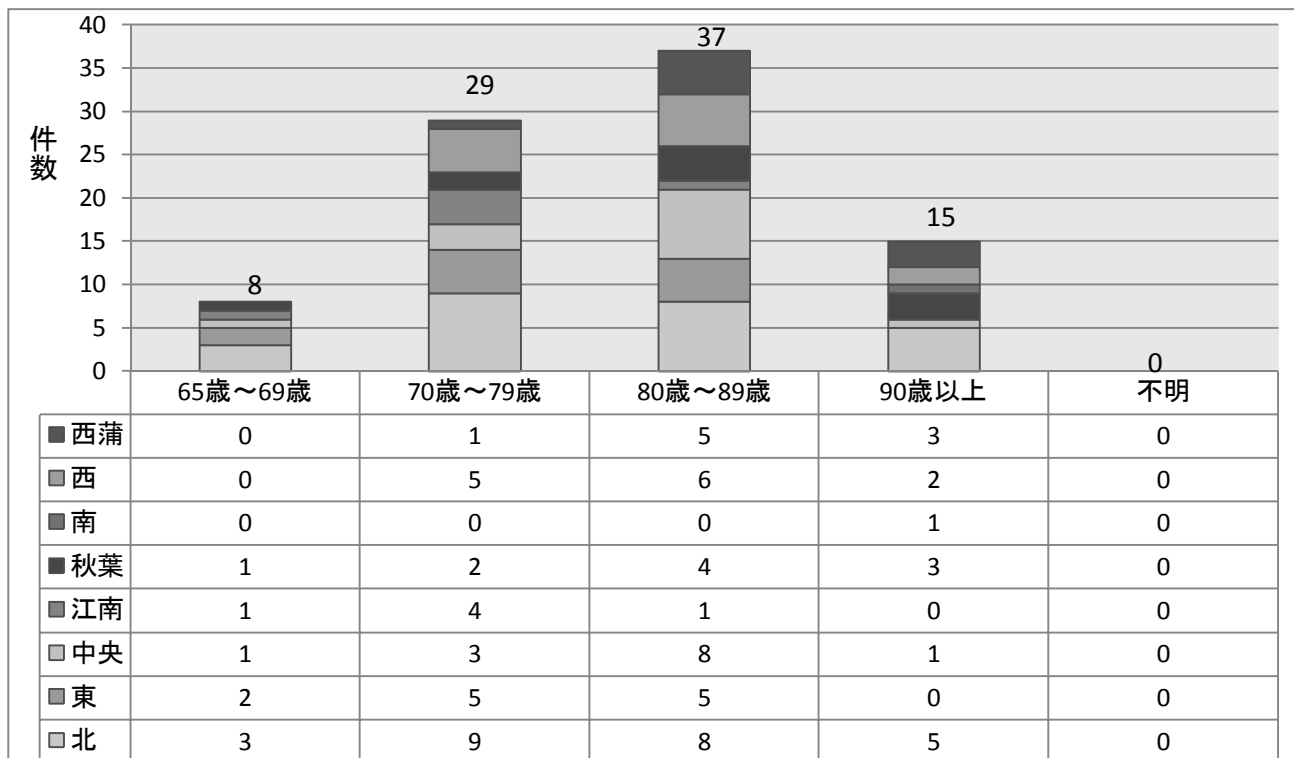
・その他・・・ 介護するということ自体の認識がない

⑥被虐待者の性別 n=89



⑦被虐待者の年齢

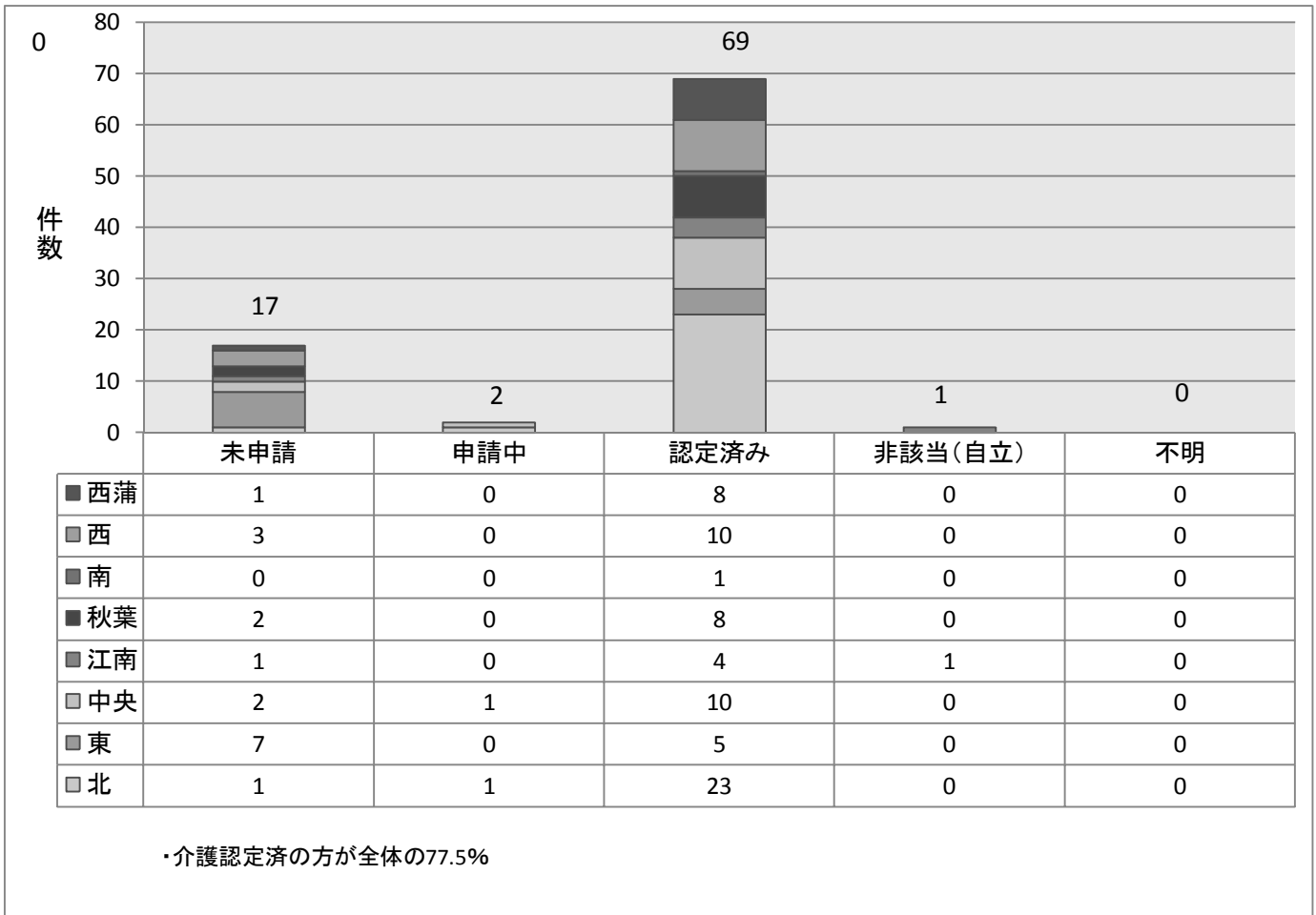
n=89



・80歳代が最も多く41.6% 次いで70歳代が32.6%

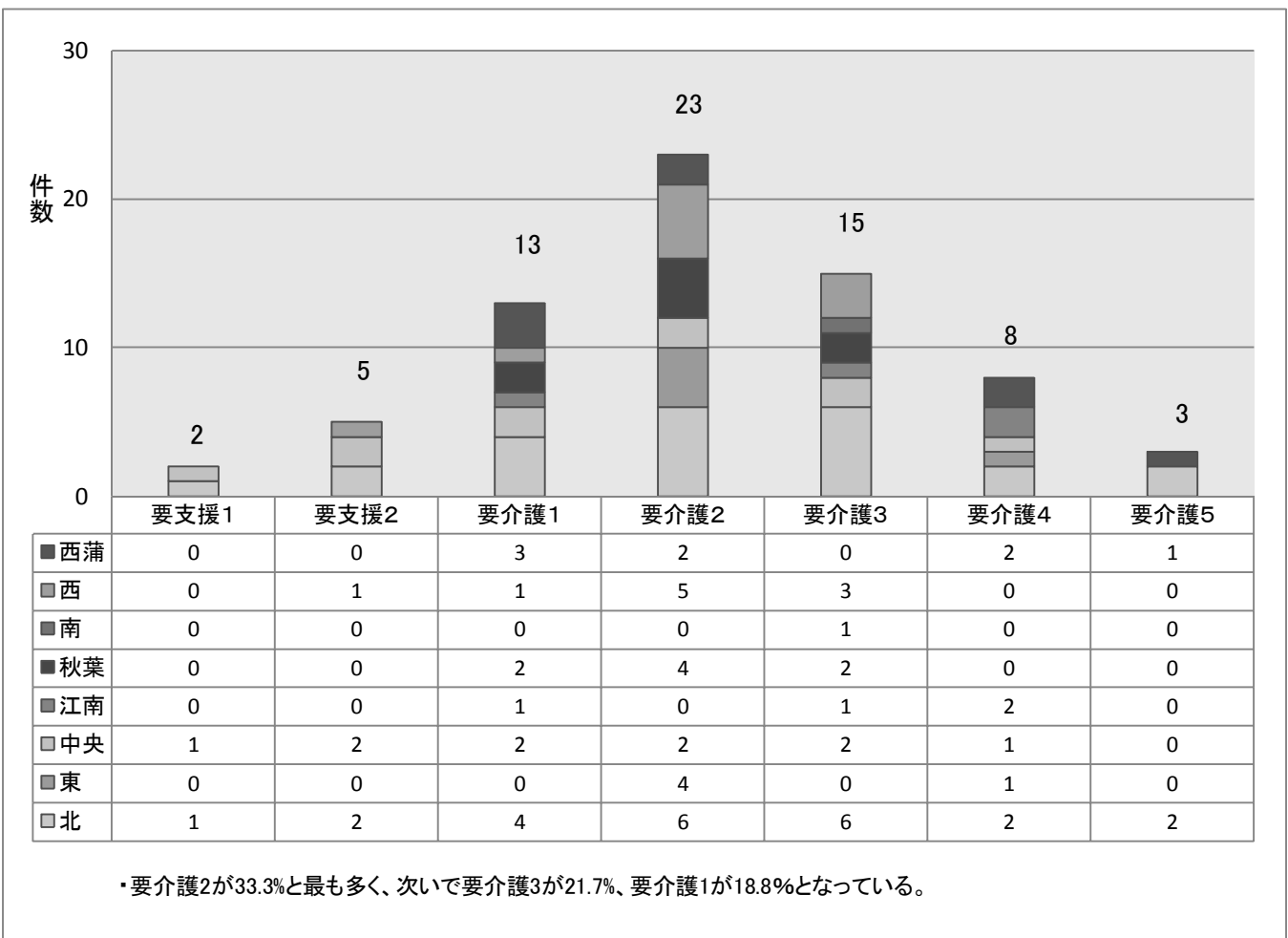
⑧被虐待者の介護認定の有無

n=89



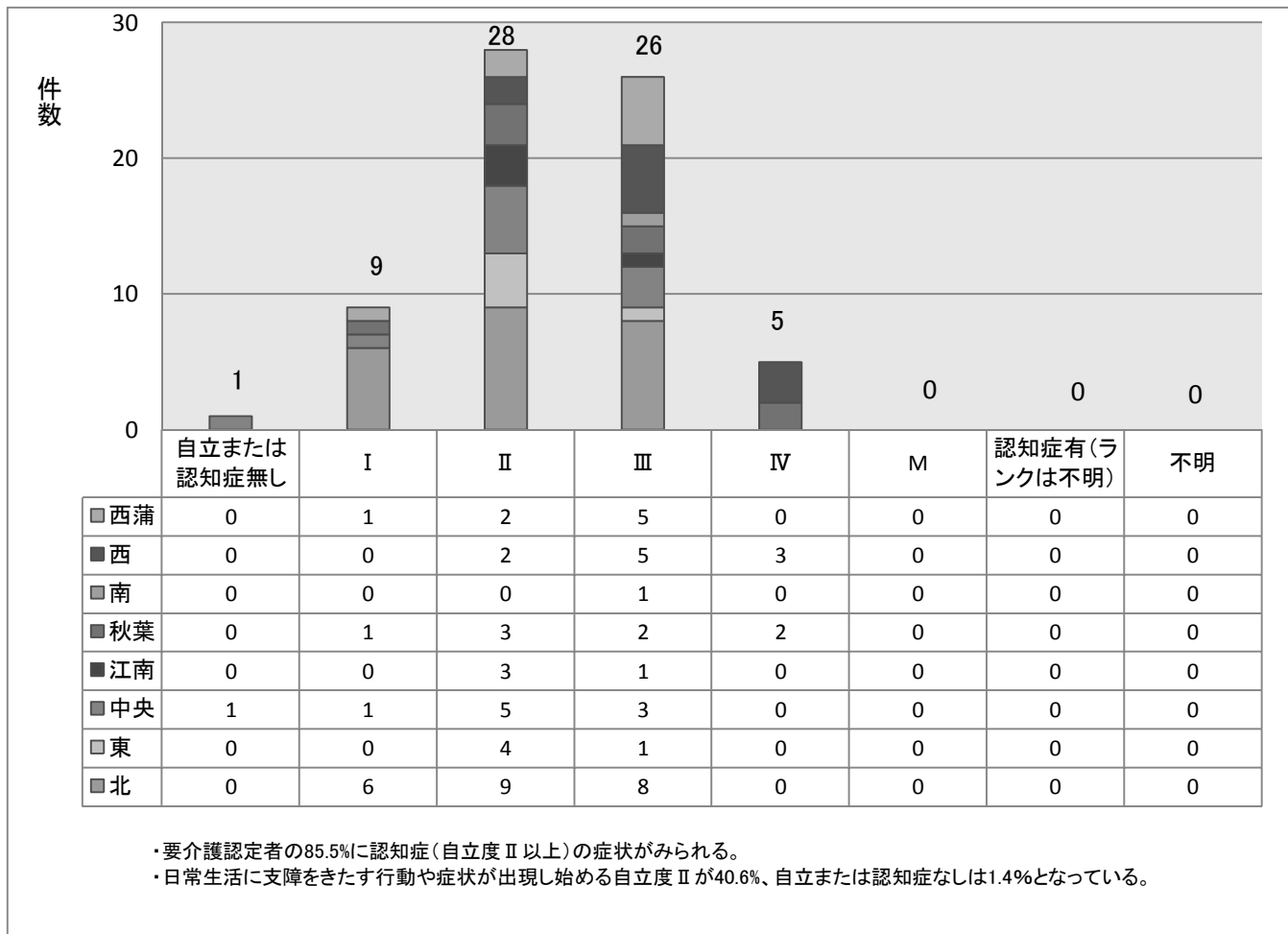
⑨被虐待者の要介護度

n=69



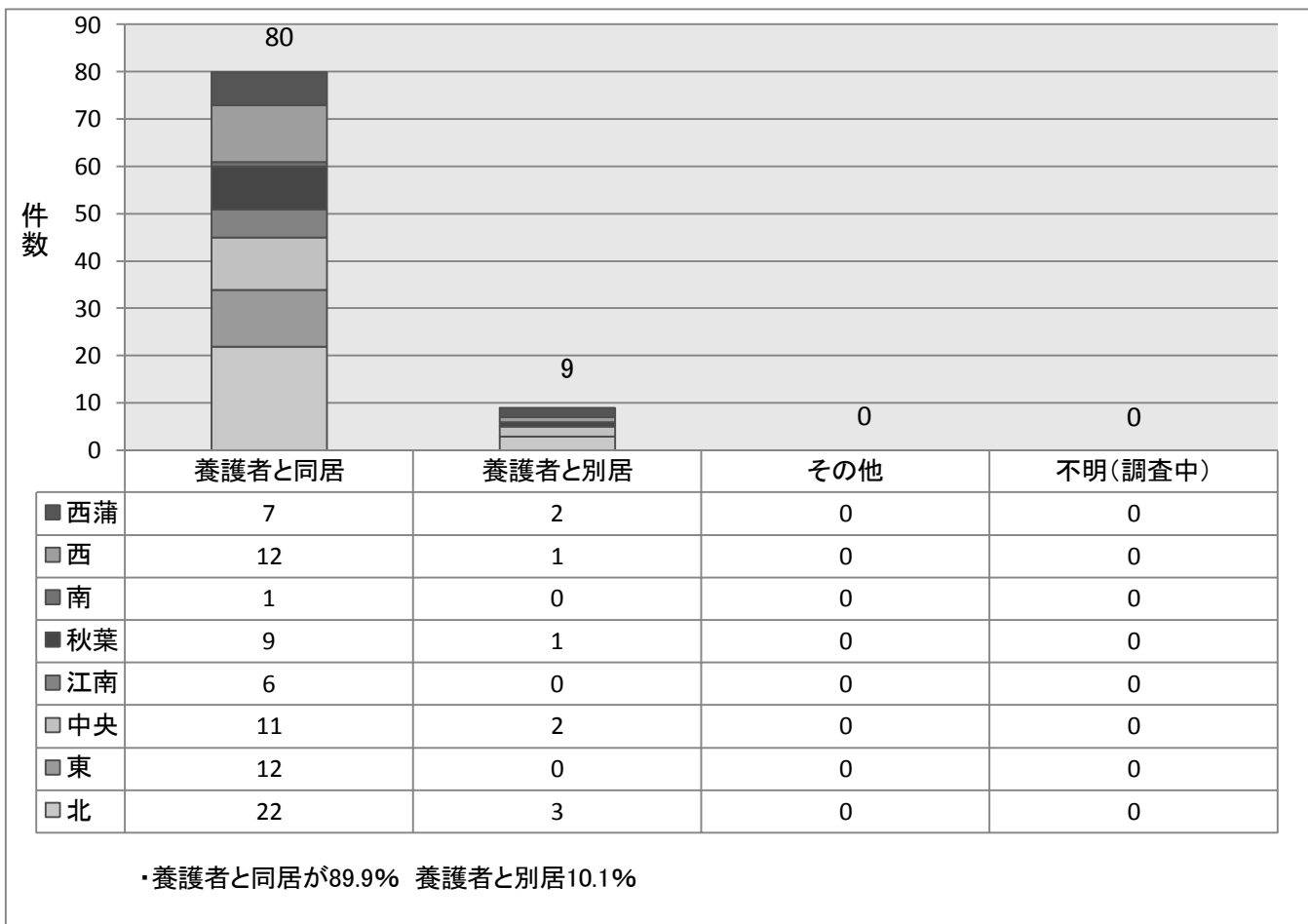
⑩被虐待者の認知症の有無

n=69



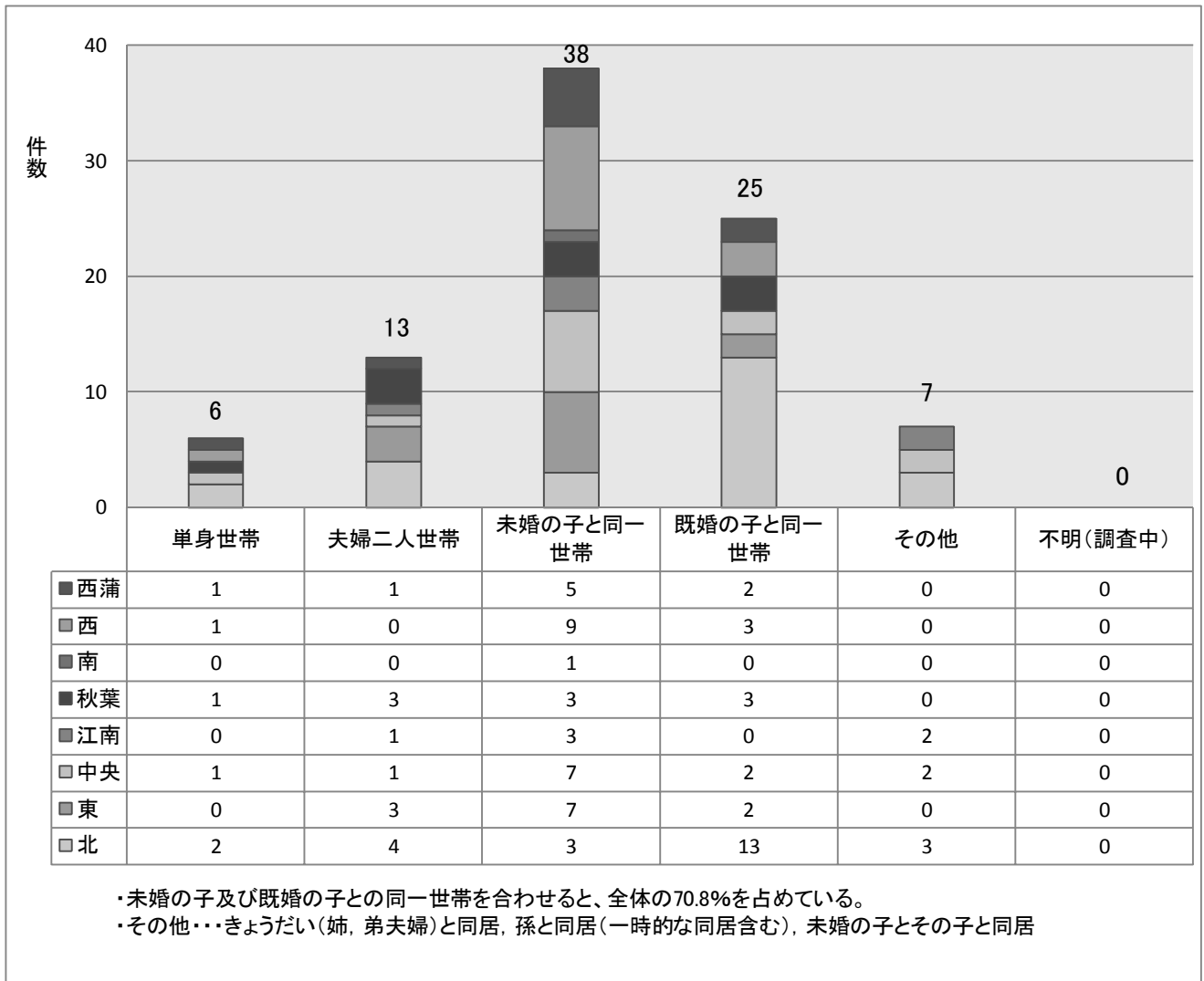
⑪虐待者との居住形態

n=89



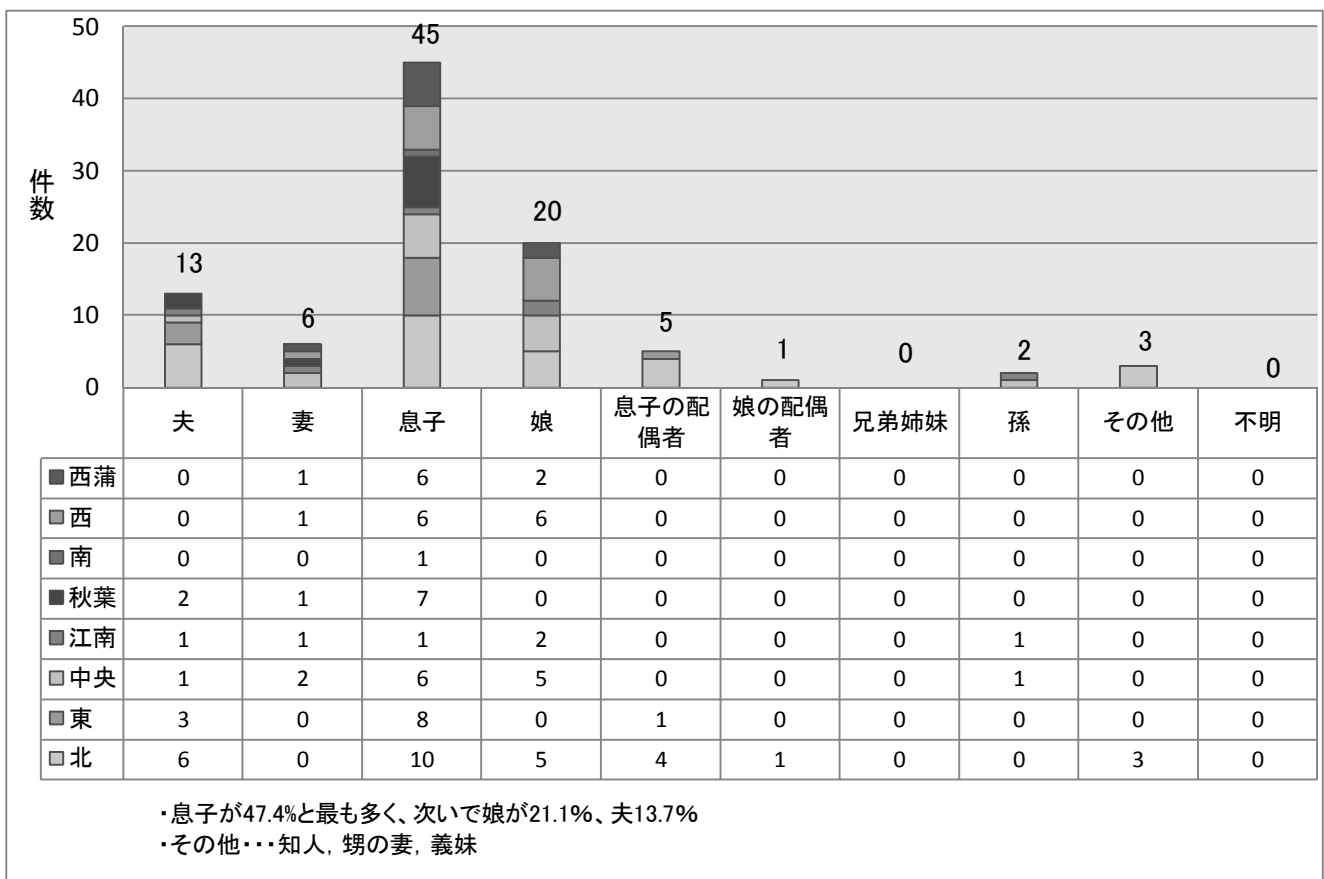
⑫世帯構成

n=89



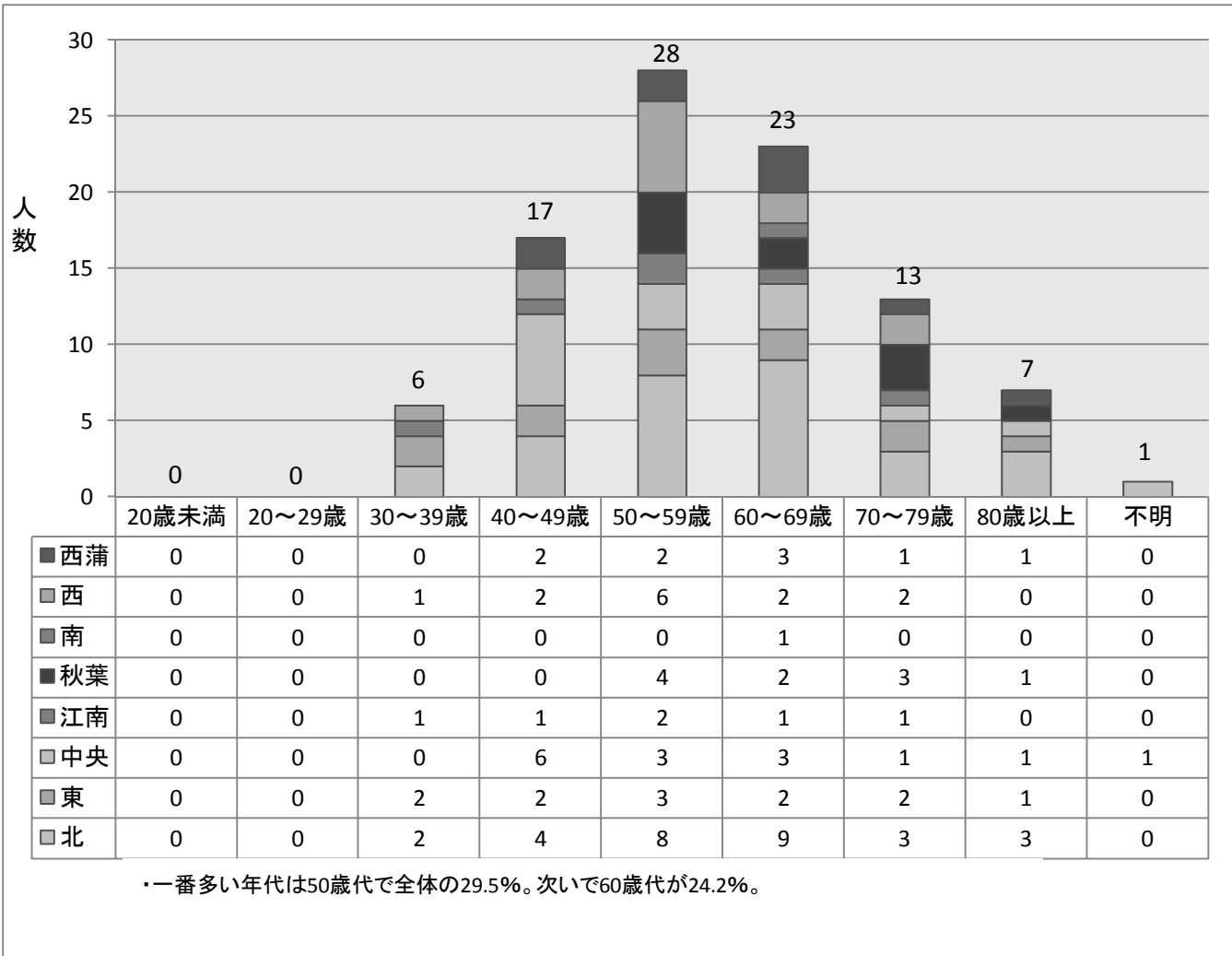
⑬養護者の続柄(複数回答)

n=95



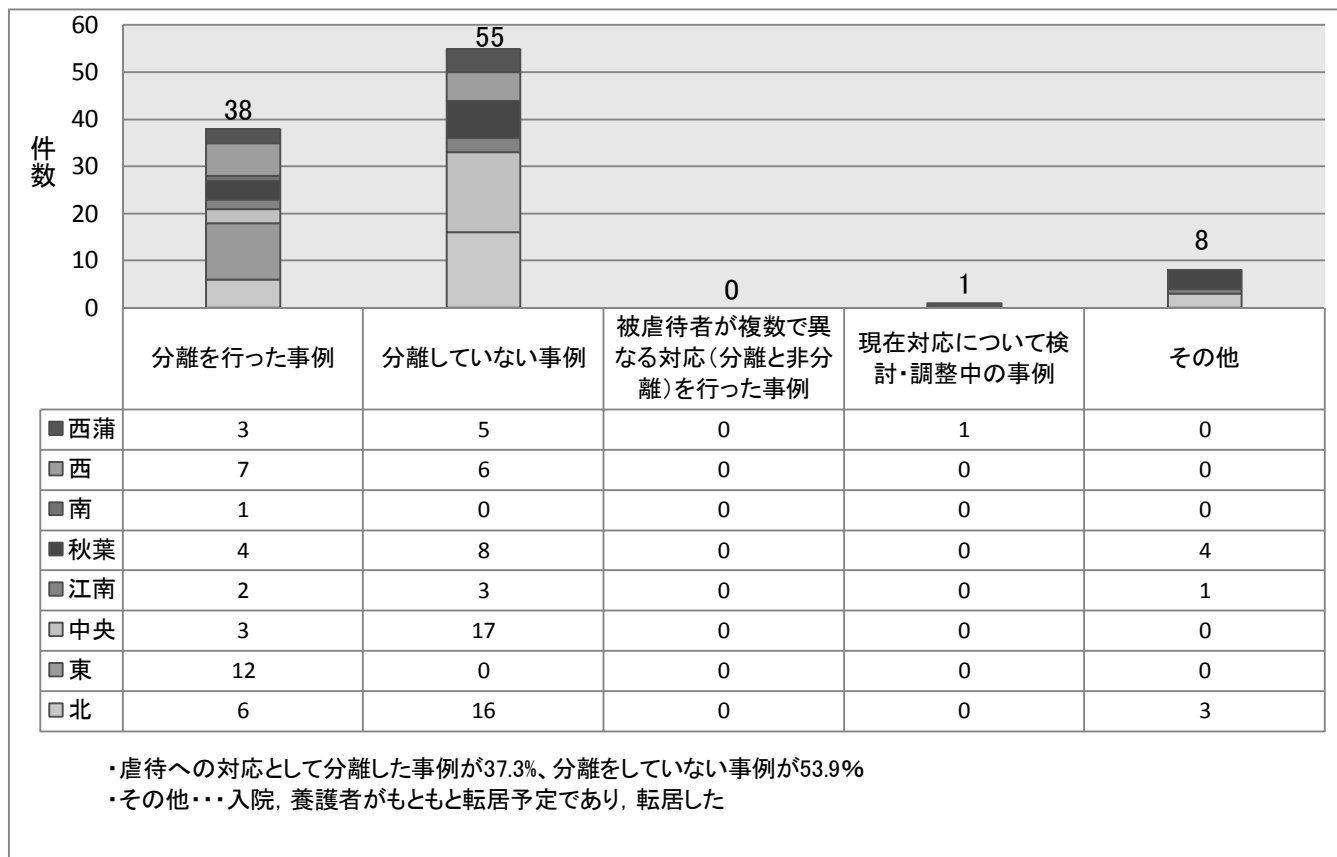
⑭ 養護者の年齢

n=95



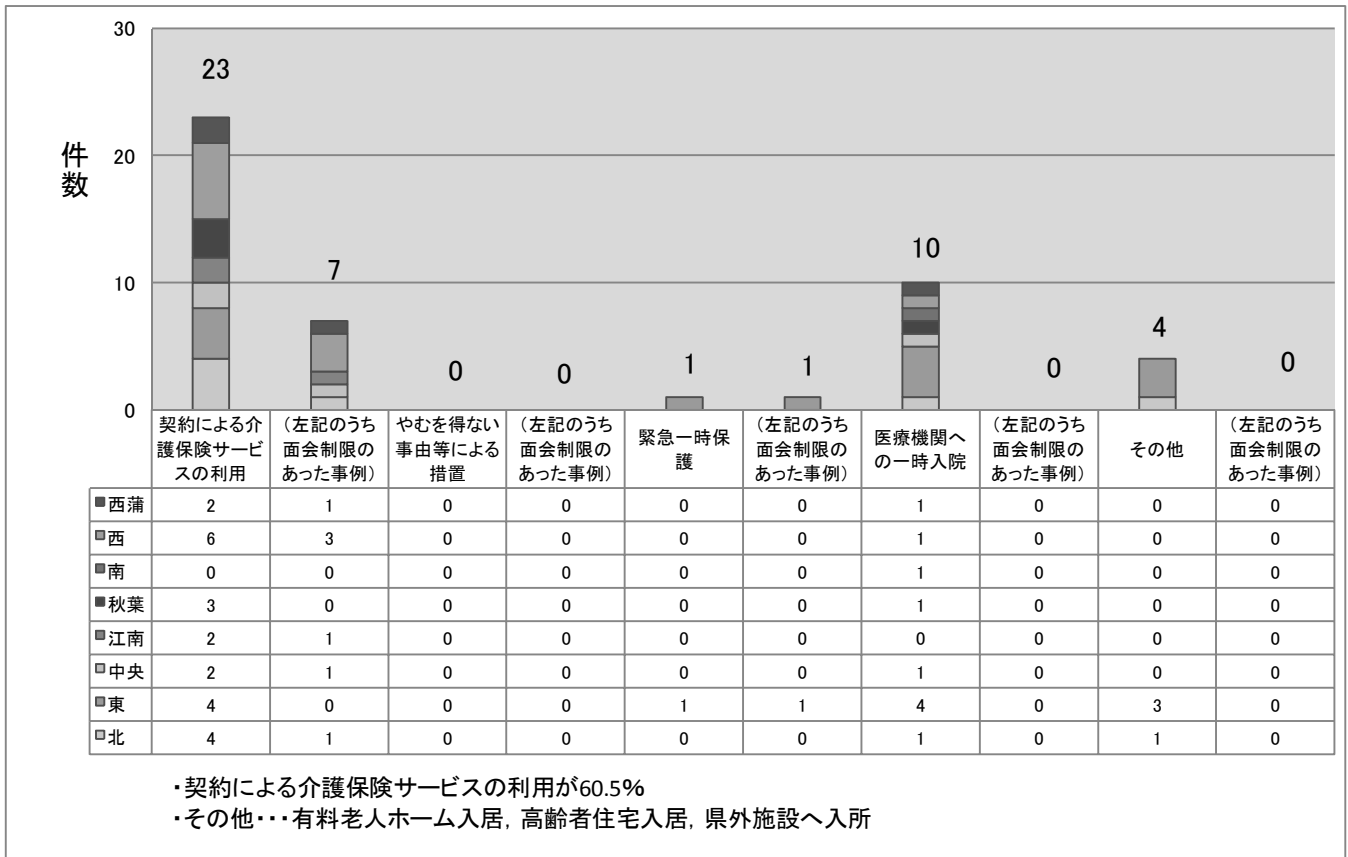
⑮ 養護者との分離の有無

n=102



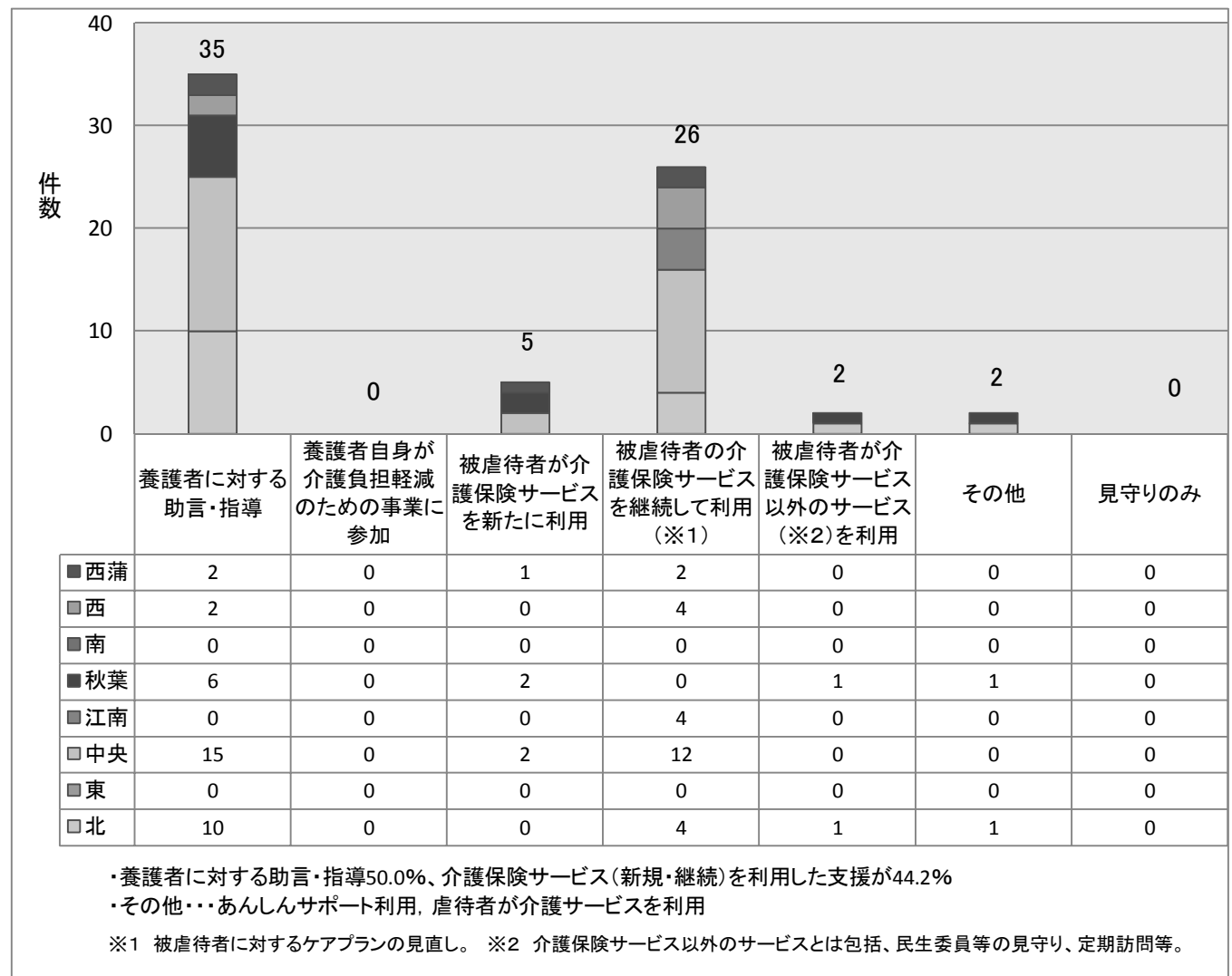
⑩分離を行った事例の対応の内訳

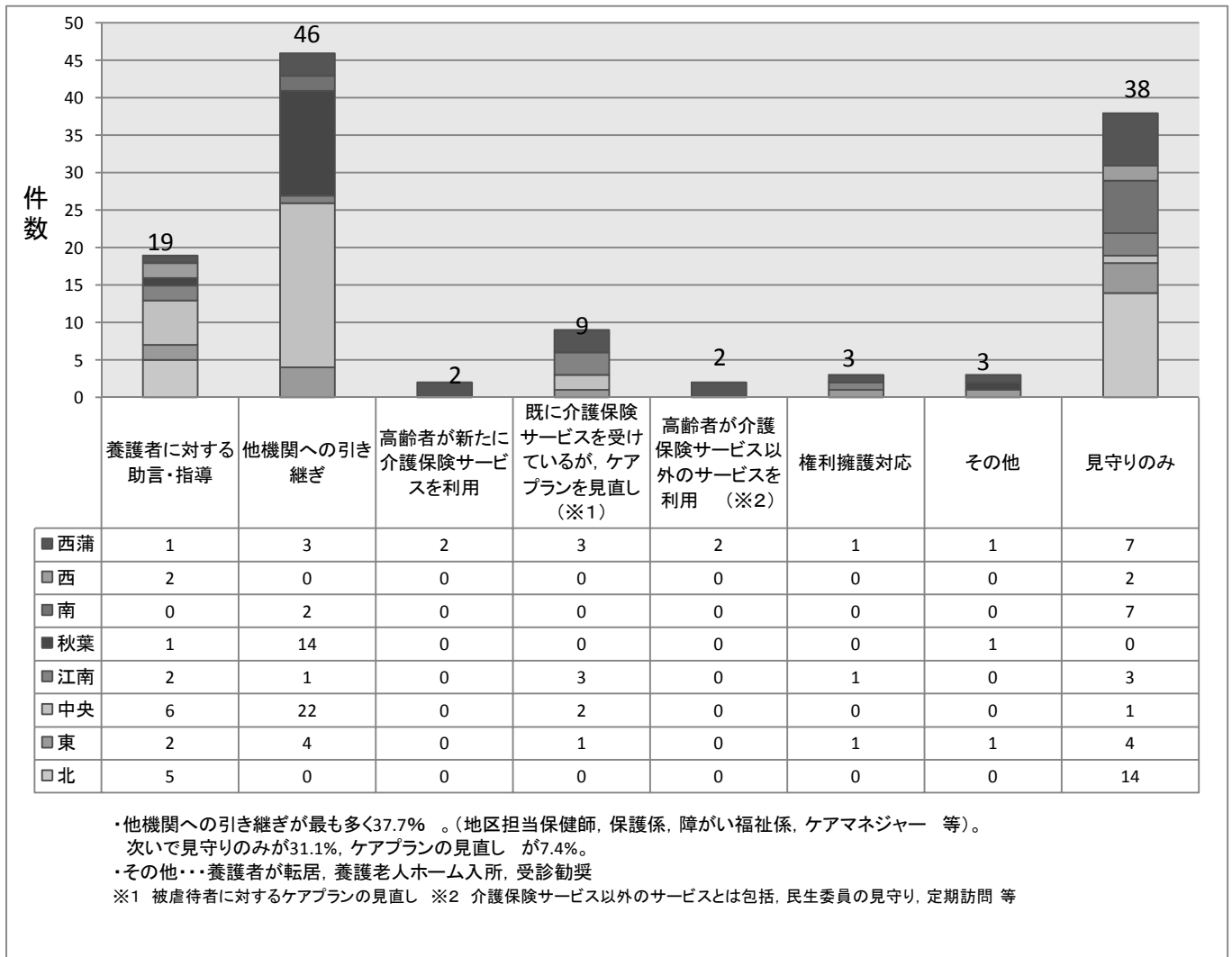
n=38



⑪分離していない事例の対応の内訳(見守りのみ以外複数回答)

n=70





⑲ 権利擁護に関する対応

